

① 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。①～⑧は段落番号です。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

① ①「しっかりと立つ」ということは、ふつう考えられているよりは難しいことである。街を見渡してみて、「この人はしっかりと立っている」と感じられる人は、どれだけいるだろうか。立ち姿に存在感を感じるような立ち方となれば、いつそう見つけるのが難しくなるだろう。長時間立ちつづけるためには、※合理性がともなっていなければならない。

② 合理的でなおかつ存在感のある立ち方となると、それは一つの文化であり技である。それぞれの人間がふつうに生活していて、なんとなく身につけてくるような質のものではない。九九を覚える練習や書き取りの練習をしなれば、②そうしたことが身につかないのと同様に、「合理的で存在感のある」立ち方もまた、身につけるのには※修練が必要なのである。

③ ③体力の低下傾向も、こうした姿勢の崩れの大きな要因ではある。身体を多く使う生活をしなくなれば、生活上の体力は当然、落ちてくる。長い距離を歩く力の低下は、その代表である。

④ A、事はそう単純ではない。体力測定の数値では、かならずしも姿勢の質を測ることはできないからである。立つ・坐る・歩くといったことには、基本的な※型がある。この型の修練が軽視されたままであるならば、たとえ筋力があつたとしても、それほど質の高い姿勢や動作を期待することは難しい。型の※喪失は、文化的にみて※莫大な損失である。

⑤ 坐の型を例にとってみよう。あぐらにせよ正坐にせよ、きちんと格好よく長く坐りつづけることは、そうした坐の型を身につけていない者にとつては難しいことである。坐つていても様にならなかつたり、姿勢がすぐ崩れてきたりする。日本の場合は、畳の上の坐法の伝統が、坐の型の中心を占めていた。生活※様式が西洋流に変化するのにもなつて、イス坐の生活が※主流を占めるようになってきた。そうした状況のなかで、④伝統的な坐の型の修練は、喪失されていた。

⑥ B、かといって、⑤イス坐の型を明確に自覚しているというわけでもない。イス坐における、合理的で存在感のある坐り方が、文化として学習されているとはいえない。学校教育においても、「背筋を伸ばすのがよい」という程度の指導が行われるに留まっていることが多い。背筋を伸ばすことはたしかに悪いことではないが、そうした言葉だけでは、胸が張りすぎたり肩に力が入ったりする姿勢にもなりうる。外側から見るとよい姿勢のようであっても、当人にとっては息の浅い苦しい姿勢になっているとすれば、それはここでいうよい姿勢ではない。

⑦ 諸外国を旅したり、日本に来ていた外国人を見て気づかされるのは、日本人の姿勢の悪さである。文明生活が促進されるにしたがつて、体力が低下し姿勢が崩れていくという一般的な見方では、この差を説明することはできない。諸外国人に比べて、日本人の姿勢の崩れがとりわけ激しいとすれば、それは身体の基本的な動作を「文化」として捉え尊重してこなかったことに、おもな原因があるのではないだろうか。※日本列島改造論にのつとつて、美しい海岸線をコンクリートで塗り固めて、⑥白い砂浜を破壊するにまかせたのと同質の無神経さが、身体に対して行われてきたのではないか。

⑧ かつて、立ち、坐り、歩くことにおいて、型を持っていた身体があつた。いつてみれば、それが美しい白浜である。白い浜辺が当たりまえだったように、日常生活における身体技法もまた当たりまえのものであつた。その当たりまえに甘えて、破壊が続けられてきたのである。

(斎藤孝 『自然体のつくり方 レスポンスする身体へ』)

※合理性：道理にかなっていること。

※修練：精神や技能をみがききたえること。

※型：決まった形。

※喪失：失うこと。

※莫大：きわめて大きいさま。

※様式：長い間に自然に作られた一定の形式。
※主流：中心となつている傾向。中心をなす勢力。
※日本列島改造論：一九七二年、当時自由民主党の田中角栄という政治家が発表した政策。

問1 一線①「しっかりと立つ」ということは、ふつう考えられているよりは難しいことである。」について。

I 「しっかりと立つ」とはどういう立ち方ですか。本文中から二十字以内で抜き出さない。

II 「ふつう考えられているよりは難しいことである。」とありますが、「難しいこと」とはどういうことですか。②の本文中の語を使って二十字以内で答えなさい。

問2 一線②「そうしたこと」が指すものを本文中から二つ抜き出さない。

問3 一線③「体力の低下傾向も、こうした姿勢の崩れの大きな要因ではある。」とありますが、「体力の低下傾向」以外の「要因」を④の本文中から四字で抜き出さない。

--	--	--	--

問4 A、Bに入ることはの組み合わせとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア A また B しかし
- イ A また B また
- ウ A しかし B しかし
- エ A しかし B また

--

問5 一線④「伝統的な坐の型の修練は、喪失されていた。」とありますが、これはどうしてですか、本文中のことはを使って五十文字以内で説明しなさい。

問6 一線⑤「イス坐の型を明確に自覚しているというわけでもない。」とありますが、「型を明確に自覚して」いないためにどのような姿勢になってしまっているのですか。本文中から十字以内で抜き出さない。

問7 一線⑥「白い砂浜」とは何をたとえたものですか。最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 文明生活の促進
- イ 日本列島改造論
- ウ 身体的基本的な動作
- エ 体力の低下傾向

--

問8 本文の内容と合致するものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本人は、畳の上の生活が少なくなり、正坐やあぐらなどの畳上の坐法の伝統がとだえ、イスの坐の修練が主流になったため、姿勢の崩れがひどくなった。
- イ 急激な近代化が進む中で美しい自然が忘れ去られ、破壊されていったように、日本人らしい生活のありようも、そのよさが忘れられ、消滅してしまった。
- ウ 日本人は近代化にともなう西洋化の流れの中で、坐ることや立つことのような基本的な動作の型を「文化」として尊重し、伝えようとしてこなかった。
- エ 日本人は文明生活の促進による体力低下と急激な西洋化から、日本人らしい姿勢を見失い、日本人としての基本的動作に合理性と存在感を失うことになった。

--

問9 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。
(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

①新築の家に住むこと三日で、情けなくて涙が出そうになった。皿洗い機とレンジを備えた広いダイニングキッチン。ソファを置いた応接間。見晴らしのよい二階の居室。広い窓。テラス。いつでもお湯が出る※セントラルヒーティング。いつだってトイレが暖かいし、コックをひねればフロも気まま。
近代的な家である。シャンデリア風の大きな蛍光灯がついているし、日が落ちるのを横目で見ながら仕事をする必然性もなくなった。荒っぽい生

活をしていたのでインクが使えず、鉛筆で一年間書いてきたが、もう万年筆が使えるのである。

でもそれが何だというのだ。私はいららし、腹を立て、べそをかいた。「立派な箱を作ってみたけど、結局は人を自然からへだてるオリじやないか。いやだ、いやだ。こんな所に寝るなんて、凍え死んだ方がましだ」すると妻が、

「島の方がよかったですね。隙間風がびゅうびゅうと吹き込み、それでロウソクが揺れ、ストーブで **A** 湯がわいていて」

「そうともさ。大地の上に板を張っただけという感じだった。トビムシが※しこたま入ってきたりしてさ」

「この家、自分の持ち物にしなくてよかったですね。どうせ、わたしたち、こんな所には住めないのですよね」

「そうだよ。②時計のハリを逆に回したらいけないのだよ」
多額の出費を強いた家、正確には※動物王国の宮殿の所有権は、基礎工事をする時から私たちが夫婦のものではなかった。中に含まれている家具一切をつけて、弟夫婦にプレゼントしてある。私に※しかるべき立ちのきの余裕さえくれれば、いつ、だれに売ってもいいのである。

だが彼らも受け取らず、仕方がないので※ヒゲの二世、昨年の暮れ誕生した北斗君に強引に押し付けた。将来、もし北斗が駄菓子屋を欲しくなり、「この家、五百円でおじちゃんに売るよ。それでガム買おうんだい」といえば、たちまちにして人手に渡ることにもなる。それで満足だ。

こういう近代的な家を建てたについては、③私なりの配慮があった。それは家族が、私の好みに合わせて文明的な生活を出来ないのではかわいそうだと考えたからだ。無人島で暮らしたことだって、※犠牲を強いたのであったら申しわけがない。だから今度の王国では、中央にデーとした近代的な王宮があり、周囲に※あばら家を配置しておけば、国民に対する※ひげ目を負わずに済むわけだ。

開国して十日目。書齋と称する私のあばら家が完成した。ついで馬小屋も出来た。ヒゲマの住居に組みこんだ居室に吹きこんだ雪も消えた。「ばんざい。やっとこれで解放されるぞ」

私はそそくさと※夜具を抱え、あばら家の方へ引越してしまった。するとどうだ。ストーブの炎がゆらめき、風の音が復活した。床が低いので、馬が足踏みをする響きまで伝わってくる。いななきが聞こえ、小鳥の歌が窓のすぐ側にある。私は犬を中に入れ、心底 **B** を感じた。もう槍が降っても、あんな※エセ王宮になんか泊まるものか。

④ヒゲはベッドを馬小屋に持ちこんだ。まだ少々寒いのが、真冬の島に比べれば、もの数ではない。彼は心境をこう説明した。
「おれも王宮はいやだね。初めからその予感があったけど、建てちまつたのだから、食堂と思えばいいさ」

「食堂兼銭湯兼休息所か。結局、おれたちの本当の宮殿は動物の側だね」
「一緒に寝ないとね、気持ちは通じ合わないみたいだね。眺めてると写真を撮る気がなくなるのが困るけど、**C** やってゆくつもりだ」
あばら家で眠った次の朝、戸を大きく開くと、軒先をかすめるようにしてつがいのタンチョウヅルが飛んでいた。⑤こうでなくてはならない。

(畑正憲 『ムツゴロウの動物王国』)

※セントラルヒーティング：建物の一カ所に装置を設け、建物全体を暖房する方式。

※しこたま：たくさん。どっさり。

※動物王国：筆者が北海道に作った施設の呼び名。筆者とその家族とスタッフが動物を育て、共に生活する施設。

※しかるべき：それにふさわしい。適当な。

※ヒゲ：筆者の弟の呼び名。

※犠牲：ある目的を達成するために大切なものを引き換えにすること。

※あばら家：あれはてた粗末な家。

※ひげ目：自分で意識している弱み、欠点。

※夜具：夜、寝るときに使う用具。布団、まくらなど。

※エセ：似ているが本物でない意を表す。にせの。

